

看護あきた

Nursing Akita

Vol. 109

平成24年度 2号

公益社団法人秋田県看護協会会報

- | | |
|-------------------------|---------------------------------|
| 1 新人ナース紹介 | 7 地区活動報告 |
| 3 シリーズ看護部長が看護の思いを語る | 9 子育て応援団すこやかあきた2012
イベントリポート |
| 4 シリーズ認定看護師 こまち紹介 | 10 シリーズ地域看護 |
| 5 平成24年度
看護管理者連絡会議報告 | 11 事務局からのお知らせ |



「エリアなかいち」
平成24年7月オープン

平成24年度会員数(9月3日現在) 6,851名

保健師 278名 助産師 316名 看護師 5,961名 准看護師 296名

新人ナース紹介

幼い頃の
看護師さんを目指して



簾内 史緒さん

秋田県立脳血管研究センター 3階病棟

私が看護師を志したきっかけは、幼い頃に怪我をして手術をしなければならなくなり、不安で一杯だった私に対して、看護師さんが笑顔で声をかけてくれて、その優しい姿を目の当たりにしたことです。

無事に4月から看護師として職場で働いていますが、日々の業務内容を覚えることや、患者さんを受け持つこと、基礎看護技術の習得、院内研修への参加など勉強の毎日です。7月からは夜勤も始まっています。業務を覚えることができず悩んだり、同期の看護師と比べて自分が出来なかつたりすることが嫌で、逃げ出したくなることもあります。しかし嫌になった時、看護師になりたかった頃を思い出したり、職場の先輩達に不安や悩みを相談してアドバイスをもらったり、友達と外出して気分転換を図るなどして、毎日を過ごしています。看護師として働くことは大変です。しかしながら、毎日が新しい発見で溢れています。また患者さんと接することへの喜びもあり、この仕事へのやり甲斐を感じています。自分に強くならなければやっていけないと思うので、自分に負けず、幼い頃に出会った看護師さんを目指して日々頑張っています。



先輩ナース
から

新田一也さん
プリセプター

看護師として働いてから早くも4か月が経とうとしています。初めての職場で覚えることもたくさんあり、不安も多いと思います。しかし、簾内さんは毎日朝早くから病院に来て情報収集をして、いつも患者さんやスタッフに対し明るく元気に接しています。素直で誠実な人柄があふれており、患者さんへの細かいところまでの配慮や丁寧な言葉づかい、そして優しい言葉かけなど、私自身気付かせてもらうことも多くあります。患者さんと接しているときの一生懸命な姿が微笑ましく、これからの成長が楽しみです。

私たちの病棟には新卒者が2人います。それぞれが頑張っており頼もしい限りです。これからもお互いに切磋琢磨するよう頑張っていってほしいと思います。



「笑顔でコミュニケーション」をモットーに

私は、4月から能代山本医師会病院に就職し、消化器内科を中心とした混合病棟に勤務しています。覚えることがたくさんあり戸惑うことも多いのですが、先輩方に支えてもらい日々頑張っています。

仕事をするうえで大切にしていることは「笑顔とコミュニケーション」です。私は学生時代、患者さんに自分の意図することが伝わらず、不快な思いをさせてしまったことがありました。その時初

北林 美咲さん

能代山本医師会病院 混合病棟

患者さんからの 言葉を励みに



仲村 曜さん

平鹿総合病院 混合病棟

所属部署は外科・乳腺外科・泌尿器科・形成外科の混合病棟です。毎日入退院や転出転入が多く、手術や終末期・化学療法を受ける患者さん等で、疾患や技術も幅広く学ぶことが沢山あります。初めてのころは緊張と不安だらけで思うように日々の業務を行うことができませんでした。患者さんの要望や訴えに対してもどうしたらよいのか悩むことが多くありましたが、プリセプターさんやチームの皆さんが私のことを気にかけて下さり、相談もしやすくとても心強く感じています。また、患者さんからは「担当が仲村君でよかった」と言って頂いたことがとても嬉しく励みになっております。

看護師として技術や知識の向上を目指し、患者さんに寄り添った看護ができるように、これからも学習を続け成長していきたいと思っています。

めてコミュニケーションの難しさを実感しました。

さまざまな疾患を抱えている患者さんに関わっていく中で、コミュニケーションは重要で信頼関係を築くためには欠かせないものだと思っています。

これからは、知識と技術を身につけ経験を重ね、笑顔を忘れず患者さんに寄り添うことができる看護師になりたいです。



先輩ナース から

沓澤祐子さん プリセプター

入職してから4か月が経過し、日々の業務の中でも一人で自信を持って実施できることが増えてきましたね。細かいアドバイスや疑問に思ったことをメモに取り、仕事を早く覚えようと頑張っています。仲村さんのその笑顔と感じのよい挨拶は患者さんや家族をホッとさせると思います。

分からないことや判断に迷うことがこれからはあると思いますが、一緒に学び、サポートしていきたいと思っています。



先輩ナース から

宮腰ゆかりさん プリセプター

当病棟に配属になり、3ヶ月が過ぎようとしています。多忙な業務のなか、覚えなくてはならないことも多く大変だと思います。しかし、いつも笑顔で患者様と接している姿を見ると嬉しくなります。これから先、壁にぶつかることもあると思いますが、一人で抱えず一緒に乗り越えていきましょう。

看護部長が 看護の思いを語る



No. 6 市立大森病院
総看護師長

遠藤まゆみさん

患者さんの代弁者となる温かい看護を

組織について

平成10年に保健、医療、福祉を総合した「地域包括的ケア」を推進する拠点として「健康の丘おおもり」をオープンしました。市立大森病院はその中心的施設で、隣接する老人保健施設、特別養護老人ホーム、生活支援ハウス、デイサービスセンター、高齢者等保健福祉センターと連携をとりながら地域包括医療・ケアを実践しています。

「絆」の大切さを実感できる仕事

看護師の仕事は肉体的にも精神的にも決して楽な仕事ではありませんが、時間をかけて取り組んでいくほどその良さを感じられる仕事です。職場のスタッフや患者さんによって育てられ、ある程度の経験を積んだところで、ようやく自分が人の役に立っていると実感して働けるようになります。今まで看護の仕事

をしてきて、患者さんや家族からありがとうという言葉を頂いたり、クレームに悩んだり、トラブルで落ち込んだりと様々なことがありましたが、多くの先輩や後輩、スタッフの支えがあったことで乗り越えることができ、今の私があります。看護は人と人との繋がりが「絆」の大切さを実感できるすばらしい仕事だと思います。

思いやりと自律した看護師の育成

医療技術の進歩や少子高齢化社会の進展、安全で安心できる医療提供に対する患者さんや家族からの要望の高まりなど、看護を取り巻く環境が大きく変化しているなか、看護師の専門性が求められています。当院では、看護科の理念に基き、心豊かな人間性と高い倫理観を持ち、患者さんを取り巻くすべてに目を向けられる、患者さんのために行動できる自律した看護師の育成に力を入れています。また、看護師は患者さんにいちばん近い立場にいる医療職として、患者さんの代弁者となり他の医療スタッフとの懸け橋となる存在だと考えています。看護師がいきいきと誇りを持って働きつづけられる環境、スタッフの意見や気持ちが反映された心のこもった温かい看護が提供できる看護科を作ることが私の役割だと思っています。

社会に対して

当院は、地域包括医療・ケアを推進しながら可能な範囲で急性期疾患への対応を行うとともに、慢性期から在宅医療まで幅広く地域のニーズに対応しています。今後は、さらに在宅療養支援病院として健康の丘おおもりの各施設や横浜市西部地域の介護施設、診療所などと連携システムを構築し、市民の皆様が安心して生活できる継ぎ目のない医療・看護サービスを提供していきたいと思っています。



「こまち」紹介

毎回、看護の専門性をたゆみなく探求し続ける認定看護師さんを紹介します。

田畑 美雪さん

こまち File No.21

独立行政法人国立あきた病院
皮膚排泄ケア認定看護師

今取り組んでいること

私は月に1度、褥瘡専任の日を頂き活動しています。専任日は院内の褥瘡、ろう孔、ストーマ患者さんのラウンドや病棟のスタッフと情報交換をしながらケアの相談を行い、褥瘡チームの勉強会等を企画・運営しています。もちろん院内では皮膚排泄管理という立場なので、依頼があれば病棟を抜けて他の病棟へケアや相談に行く事もあります。6月には褥瘡管理システムが導入され院内の褥瘡発生状況がリアルタイムで分かるようになりました。

皆と一緒にがんばりたいと思っていること

当院に入院する患者さんは、神経難病、筋ジストロフィー、重症心身障害児であり自力歩行が困難です。患者さんの多くは、末梢神経障害をもち血流が悪く、知覚が鈍くなっています。そのため皮膚潰瘍が出来やすく一度出来るとなかなか治りません。ベッド上で過ごす事が多い患者さんの血流が少しでも改善されるよう、血流測定をチームで取り入れアセスメントの充実と早期発見、患者さんの自己回復力を手助けできるようにチームで取り組みたいと思っています。



嵯峨 千春さん

こまち File No.22

社会医療法人明和会 中通総合病院
がん化学療法看護認定看護師



今取り組んでいること

私の主な活動の場は、外来化学療法室です。患者さんの身近な存在となり、辛い治療や不安が少しでも軽減し充実した生活を送れるよう看護実践しています。特に皮膚障害の指導に力を入れ、患者さんそれぞれの生活に取り入れやすい指導を心がけています。また、入院患者さんが退院後、外来化学療法に不安なく移行できるよう化学療法室に案内しオリエンテーションをしています。その他、化学療法委員会や緩和ケアチームメンバーとして当院のがん医療のマネジメントに関わっています。

皆と一緒にがんばりたいと思っていること

今後の取り組みとして、院内の連携強化です。化学療法を受ける患者さんは外来の長期間の治療期を経て、病棟で終末期を迎えることが多いです。化学療法室・当該外来・病棟間の情報共有・継続看護が安定して行われるよう業務・システム整備を行っていきたく考えています。

2013年10月に新築棟が完成し、化学療法室も増床される予定です。認定看護師として専門性を発揮し患者さんに質の高い看護とチーム医療を提供できるように頑張りたいです。



看護管理者 連絡会議 報告



- ◆実施日:平成24年7月10日(火)
- ◆時 間:9時25分～16時00分
- ◆テーマ「看護管理者の役割」
- ◆サブテーマ「東日本大震災の経験から学ぶ」—今後の課題と対応—
- ◆場 所:看護センター5階第一研修室
- ◆参加者:60名 医療施設・福祉施設の看護管理者
- ◆目 的:看護管理者が現場で抱える看護実践、地域活動、体制等における課題を共有し、課題解決のための方策と看護協会としての取り組みや会員支援のあり方を考える。

内容

◆午前
講 演1◆「病院機能喪失 —その経験と教訓—」
講師:前石巻市立病院看護副部長 石母田 由美子氏

講 演2◆「その時看護部はどう動いたか」
講師:石巻赤十字病院副院長(兼)看護部長 金 愛子氏

事例提供◆「東日本大震災時の救護活動」
講師:秋田赤十字病院看護部長 神田 和樹子氏

◆午後
グループワーク◆「震災後の施設の取り組み」

情報提供◆「看護の動向と課題」
秋田県看護協会会長 烏トキエ



「東日本大震災の経験から学ぶ～今後の課題と対応～」

厚生連平鹿訪問看護ステーション管理者 小坂富子

報道により、被災地が大変な状況であることは知っておりましたが、今回の講演で、実際にその場にいた方々の、それぞれの立場(大地震、津波で被災された病院・普段の何倍もの患者さん、被災された患者さんの受け入れを行った病院、更に救護班を出す事で後方支援を行った病院)、での貴重な体験談を伺う事ができ、現場が目に見えるようで本当に身につまされる思いがしました。

特に石巻市立病院での「病院機能喪失」「すべてが想定外」「500名弱の人々が通信とライフライン断絶の中で過ごした5日間」「電気のない環境で患者のいのちを守る」、どの言葉も内容も本当にとっても重く、聴いていて涙が出てきました。「自分の胸に油性ペンで名前を書いた」この時の覚悟、心情を思うと苦しくなります。自分や大切な家族の命が危険な状況の中で、患者さんの命を守る為に、皆が自分のできる事を行い、協力して乗り切った事を教えていただき、「備えの大切さ」「判断力・行動力」「人としてのあり方」など多くの事をあらためて学ばせて頂きました。

今もたくさんの方達が復興に向けて頑張っている事と思います。震災で多くを失い先の見えない不安の中、時間・労力、想像もつかないくらい忍耐力が必要で大変な事だと思います。そのような状況の中、ご講演を頂き有難うございました。私も、今こうして健康で働ける日常がある事の幸せに感謝し、人との係わりを大切に、できる事から行動していきたいと思っております。復興を切に願っております。

平成24年度「看護管理者連絡会議」に参加して

秋田社会保険病院 看護局長 佐々木冷子

東日本大震災の経験から学ぶ ～今後の課題と対応～午前中は、被災された病院、石巻医療圏内の災害拠点病院・救急センターとして無条件に傷病者を受け入れた病院、そしていち早く救護活動を行った秋田赤十字病院の3名の看護管理者からご講演を頂きました。宮城県では、宮城県沖地震の発生率99%と言われておりました。ですから石巻市立病院では月1回の防災訓練やマニュアルの整備、個人として防災に備える、行政の防災訓練への積極的な参加など十分な備えをしていました。しかし、2011.3.11の地震発生と大津波は、すべて「想定外」のものでした。ご自分が被災者でもある石母田前副部長が語られた、通信とライフライン断絶の中で過ごした5日間は、涙・涙でしたが、そのような辛い貴重な体験を最後まで笑顔で話されたことには感動しました。午後からは講演を受けて「震災後の施設の取り組み」として、①電子カルテに伴うサーバの2次的アップについて②自家発電の見直し③衛星電話について④連絡網の必要性⑤防災訓練の見直し⑥防災マニュアルの見直し⑦防災用具等について話し合いましたが、既に取り組んでいる施設とこれから取り組む施設があり、管理者として課題が明確になりました。ご講演を頂きました3名の看護部長とこのような機会を設けてくれた看護協会の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

平成24年度「看護管理者連絡会議」に参加して

秋田県成人病医療センター 看護部長 佐々木久美子

7月10日の看護管理者連絡会議は、鳥会長の熱い思いが反映された企画でした。2011年3月11日「東日本大震災」私達は多くの場で災害時の状況、そして対応した方々の体験を耳にしてきました。しかし、「まさに災害に直面しての役割を果たし」「近くで被災された他の病院の患者、看護師を受け入れ支援し」「そして迅速に救護活動に駆けつける」活動をマネジメントなさった看護管理者の方々のお話を同時に聞く機会は今までになかった様に思います。私達は一人の人間として看護者として、そして看護管理者として行動なさった3人の講演に涙しながら耳を傾けました。

石巻市立病院は震災前多くの備えをし、訓練をしていました。全ては想定外だったと言います。全ての職員が自らも被災者であり、身内を心配しながらも、冷静になることに努め患者に配慮します。石母田前副部長の話にあちこちから啜り泣く声が聞こえます。石巻赤十字病院の金部長は、被害に合わなかった病院として受け入れ側の生々しい実体験を話して下さいました。自らの病院の体制を整えながら、受け入れ準備を進めていく強いリーダーシップを感じました。秋田赤十字病院の神田部長からは被災地から離れた場所からの迅速な救護活動の実際をお話し頂きました。被災直後から、過去の災害の知識を基に「災害時の状況から今後を想定し」非常時でも「情報を収集しての迅速な判断」のもと行動しいかなる状況でも患者に配慮し「看護組織の再構築、看護職への配慮」を積極的に進められた3人の方に、看護管理者としての姿勢を学ばせて頂きました。私は、震災が起きた年に、支援希望するスタッフを被災地に派遣する判断が出来ませんでした。判断するだけの知識とリーダーシップがなかったと今でも反省しています。「災害を知って今後に備える」を基本に災害対応のみならず多くの情報に耳を傾け、知己に触れ、看護管理者として研鑽していきたいと考えています。

秋田臨海 地区支部

秋田臨海地区支部長 大石 静香

「地区支部研修会開催」

7月7日に地区支部研修会を開催しました。今回は健康運動指導士の児玉美幸氏による「フットケアの目指すものとは 健康運動指導士の立場から～歩く為の足づくり～」というテーマで行いました。健康運動指導士は保健医療関係者と連携し安全で効果的な運動を実施するための運動プログラムを作成します。児玉氏は、介護予防事業等に取り組んでおり、足はきれいにするだけではなく、できるだけ歩いて生活ができ、QOLを向上させることが大事。その為に、体操したらどんな効果があるのか、きちんと相手に伝えること、繰り返しの回数を増やすことがプロの仕事だと熱く語られました。参加した会員からは、「運動と足の関係がわかった」「自分自身の健康と患者さんや高齢者の健康づくりの方法として勉強になった」という感想が聞かれました。実践もあり、学びとともにリフレッシュできた研修会でした。



少しきつい体操でしたが、皆、がんばりました。

「ふれあい看護体験」



一生懸命行った看護実習。最後に患者さんから「ありがとう」と。

中・高校生の夏休みに秋田赤十字病院、秋田組合総合病院、市立秋田総合病院、中通総合病院のご協力をいただき、ふれあい看護体験を行いました。生徒たちは、看護の仕事がどのようなものか、まだぼんやりとしたイメージしかなかったようでしたが、看護部長の講演や看護実習を通して、「看護は患者さんと接して、信頼関係を築いていくという大切な役割をもった仕事だと思った。」「看護は命が生まれてから亡くなるまでの、生きるを支えることだと考えさせられた。」と看護の仕事への理解を深めていました。そして、看護師を目指したいという気持ちをより強くした様子でした。この事業に携わった会員も、とても新鮮な気持ちになりました。ご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

湯沢・雄勝 地区支部

湯沢・雄勝地区支部長 伊藤 美枝子

「ふれあい看護体験」

湯沢雄勝地区支部では、医療機関において「お世話する事、看護する事を体験して頂き、看護への理解を深め関心を高める目的で、今年も中学生を対象とした「ふれあい看護体験」を開催しました。参加人数は雄勝中央病院36名、町立羽後病院14名、老人施設平成園6名でした。雄勝中央病院に看護体験に来た中学生は緊張の面持ちの中、初めて白衣に着替えナースキャップをかぶせてもらい感激した様子でした。鏡を見て少し照れたような表情が初たく感じられました。病棟での体験は患者さんの体を拭いたり、手足を洗ったり、昼食のお世話や車椅子への移動等でした。初めは表情が固く緊張していたようですが、患者さんに話しかけられ「ありがとう」の言



葉にうれしそうな笑顔が印象的でした。見学コースでは、リハビリテーション科、手術室、透析センター等、普段はなかなか見ることができない所を見て関心を示していました。4月

鹿角 地区支部

鹿角地区支部長
戸館 桂子



「まちの保健室」

今年度初めての事業は平成24年5月12日の「まちの保健室」でした。今年は初めての試みとして天候に指図されず、沢山の市民の人たちに看護協会の活動をアピールしたいと考え、鹿角いとくショッピングセンターの店内一角をお借りして行うことにしました。

公益社団法人となり「まちの保健室」の旗も新しくなり、新たな委員とともに市民の血圧測定、体脂肪測定、健康相談、パンフレットやグッズの配布などを行いました。今年は天候に恵まれず、また市政40周年や学校の行事と重なり、来店数もいつもより少なかったため昨年と比べ、多くの市民と接することは出来ませんでした。来年度も、今年以上に地域還元できるよう工夫していきたいと思えます。

「ふれあい看護体験」

今年も夏休みに入った平成24年7月25日、地区3病院で、かづの厚生病院・大湯リハビリ温泉病院・鹿角中央病院のご協力のもと、ふれあい看護体験を行いました。鹿角郡市内の3校の高校生1～3年生21名が参加しました。参加したすべての学生は看護師を目指しており、何事にも熱心に耳を傾け、緊張しながらも患者さんと触れあうことができました。また、今回はじめて



まちの保健室



ふれあい看護体験

附属施設(グループホーム)で入所者一人一人とじっくり向かい合い介護体験することが出来ました。今回の体験を通して看護職への理解を深め、やりがいを感じ、いろいろと学ぶことがあったようです。

今後も多くの学生が看護師の仕事を理解して、将来一緒に働ける仲間が増えるように継続していきたいと思えます。

採用の新人看護師4名からのメッセージでは「できなかった事が出来るようになった事や、患者さんから名前前で呼ばれるようになった事が、看護のやりがいにつながっている。」と熱く語ってもらいました。感想発表会でも「患者さんからの感謝の言葉をもらい温かい気持ちになり、これがやりがいにつながっていると感じた。」「高校生になっても看護体験に来たい。」などの感想がありました。看護の良さは実際に体験する事で伝わる部分が大きく、「やりがいのある仕事」と感じてもらえたと思えます。そして今年度は、看護部教育委員長より「医療チームの紹介」をしてもらい、病院が多くの職種によって成り立っていることが分かったという感想もありました。ふれあい看護体験が、看護に興味を持



ち看護の道へ進むきっかけや、将来の進路を考える上で大きな役割をはたしている事から、今後も創意工夫をしながら努力していきたいと思えます。

子育て応援団 すこやかあきた 2012

平成19年度から始まり、(株)ABS秋田放送が主管し、
(株)アド東北が企画運営し今年5年目を迎えているものである。
秋田県看護協会としては協力支援を初年度から継続している。

実施日

7月28日(土)
7月29日(日)
午前9時30分～午後4時30分

入場総数

34,931名
(昨年32,904名)

支援内容

- 1.産後ママの健康相談
- 2.乳幼児の身体測定
- 3.ちびっこナース撮影
- 4.ベビーマッサージ

支援担当
ボランティア

- 1.助産師職能2名
- 2.秋田臨海地区2名
- 3.在宅会員2名
- 4.ベビーマッサージ担当2名
- 5.聖霊短大学生5名、看護協会

利用者数	産後ママの健康	身体測定	ちびっこナース撮影	ベビーマッサージ
合計	16名	261名	205名	25組



● ちびっこナース撮影 ●

- 人気コーナーである。
紙の手作りキャップを配布して好評であった。
事前に相当の枚数を作成して多くの来場者に配布し喜ばれた。
- 白衣をコーナーの前面に飾るように出し興味を引くように、また取り出しやすいように工夫した。
来年度はもっとかわいらしく飾れる工夫をしたい。
- ピヨ丸は好評でほとんどの子がその傍で撮影した。

● 産後ママの相談コーナー ●

- 相談内容は産後の腰痛や足の痛み、授乳や乳房に関する事、子どもの成長に関する事など多岐にわたってあった。助産師の助言によって相談後は安心の表情に変わっていくのを見ると、専門職の力は素晴らしいと感じた。

● 身体測定コーナー ●

- 身体発育曲線(パーセントイル)に測定結果を記載し発育の概略についての説明をいれたところ、保護者からの反応は好評であった。体重測定・身長測定共に幼児以降の子どもの場合は、活発に身体を動かしたり測定を嫌がったりするので興味や関心をむけられるようなキャラクターの絵等を測定器具に貼りつけたり被せるなどの工夫を来年度はしたい。

● ベビーマッサージ講習会 ●

- 若い夫婦には好評のコーナーで、会場を年々広げ40畳でもぎりぎり間に合う状態である。1人の乳児に両親と祖父母と一緒に指導を受けるケースが多く、大切に育てられていることが感じ取れる。指導の高野さんはヘッドマイクを付けて、汗だく状態で指導をしている。



ベビーマッサージ講習会

地域 看護

地域を支え、
つなぎあう
看護職の活動を紹介します。



公衆衛生看護について ～市民と共に歩む健康づくり～

湯上市福祉保健部健康推進課

嵯峨 司子さん

保健師の仕事がよくわからないという声を聞きます。保健師は市民と共に住みよい街づくりを目指し、生涯健康で地域で暮らしていくために、妊娠期から高齢期に至るまで妊婦健診、乳幼児健診、予防接種、成人の集団検(健)診、地区での健康教室、健康相談、訪問、地区組織の育成等の幅広い活動しています。

湯上市の死亡原因は、国・県と同じく、がん・心疾患・脳血管疾患の生活習慣病が約6割を占めています。これらの病気は食生活や運動・飲酒・喫煙などの生活習慣によると言われています。そのため、個々に合わせた健康づくりと、地域ぐるみで取り組む健康づくりが必要と考えています。

平成15年、市民と共に取り組む健康づくり計画「健康かたがみ21」を策定し、実践してきました。今年度が最終評価年となるため、現在アンケートと栄養調査等を行い最終評価と来年度からの新計画を策定している最中です。

「健康かたがみ21」は8分野「食事・生活習慣病予防・運動・歯の健康・たばこ・お酒・心の健康・生活習慣」があり、それぞれに市民が取り組む目標、市が取り組む目標があります。

8分野の中の「心の健康」を例にとると、みんなで目指す目標に、「楽しい交流で仲間づくりをしよう、良質な睡眠をとろう」という項目があります。市では目標達成に向けて、うつ病や多重債務等に関するシンポジウムや講演会、心の健康相談の開催。各地区では仲間づくりと笑いをテーマにした“シニアの心の健康づくり交流事業”を行い大変好評です。

自殺予防の民間団体である「ハッピーネット」とも連携を密にしています。「ハッピーネット」は市と協働し「心の電話相談」と「お茶っこサロン」を行っています。各地区では住民同士の声かけを率先して行っています。このように市全体で心の健康づくり、自殺予防に取り組むことが自殺者の減少につながっていくのではないかと考えています。

市民との関わりについても一つ大きな事業を紹介します。当市では毎年、検診で15～20人位の人に“がん”が発見されています。がんは早期に発見し治療することが重要ですから多くの市民が受診されるよう保健師

が中心となって様々に働きかけています。例えば受診率が上がるように地域組織を通じた広報、地域での健康教育、市民が受診しやすいように「検(健)診の手引き」の工夫やセット検診の設定。受診料の助成。そして検診後“要精密検査”となった方への親身になっての対応等々。

市民からは「集団検診を受け早期発見だったので、大きな手術に至らず簡単な手術で済みました。3年経っても元気です。ありがとうございます。」「症状はなかったけど検診でがんが見つかりました。医師に検診を受けたことを褒められました。これからは毎年受けます。」等の声も聞かれます。

このようなとき程、保健師の仕事を選んで良かったと思います。今日も市民の健康づくりの仕事を精一杯行う日々です。

【参考資料】「健康かたがみ21」

分野	目標
食事	・より良い生活習慣を身につけよう
生活習慣病予防	・若いときから健康に関心を持とう
運動	・若いときから体力をつけ、足腰を丈夫にしよう
歯の健康	・一生自分の歯で食べるようにしましょう
たばこ	・たばこの害から体を守ろう
お酒	・飲酒の適量を知ろう ・飲酒運転をゼロにしよう
心の健康	・思いやりを持って一人ひとりを大事にしていこう ・生活リズムを整え上手に気分転換しよう ・生涯現役を目指そう
生活環境	・豊かな生活環境をつくろう





「AED」の寄贈

佐藤前常務理事から、離任にあたって「自動体外式除細動器(AED)」が当協会に寄贈され、代表して烏会長が受領しました。

寄贈されたAEDは、キー操作により小児から成人まで対応できる最新式の汎用品で、救命率の大幅な向上に寄与できるものです。

協会職員一同、AEDの使用がない事を祈りながら、看護センターを利用される方々の「万が一」に備え、使用方法の熟達につとめております。

平成24年度認定看護師研修者修学資金貸付の案内について

秋田県看護協会では、認定看護師の業務に従事しようとする会員に対して、その修学を容易にするため、認定看護師研修者修学資金貸付制度を実施しています。平成24年度内に制度利用者2名を募集いたします。ご希望の方は下記までお問い合わせください。

[問合せ先] 公益社団法人秋田県看護協会 担当: 庶務係 かこや 籠谷
Tel.018-834-0172 Fax.018-835-9522

インターネット配信研修(オンデマンド受信) 「働き続けられる職場づくり～看護労働のシフトワークの改善～」 開催のお知らせ

※オンデマンド研修は、11月29日(木)に実施するリアルタイム配信研修を収録したものをインターネット経由で録画再生する形式です。

日 時: 平成24年12月11日(火) 9:30～16:30
会 場: 秋田県看護協会 5階 第一研修室 定 員: 60名
受講料: 日本看護協会会員4,000円 非会員6,000円

[問合せ先] 事業部 教育研修係 Tel.018-831-8020

第39回秋田県看護学会開催の案内

開催日程: 平成24年11月9日(金) 開催場所: 秋田県総合保健センター 大会議室
申込は終了しましたが、参加を希望する方は随時申し込みを受け付けております。
FAXでの申し込みをお願いします。

今回掲載された文章や写真、個人名・団体名については個人情報保護法の下、他の目的には一切使用いたしません。

編集後記

オリンピックで盛り上がった夏も終わり、少し淋しさを感じる今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

新しい体制の委員会活動もだいふ慣れてきました。

先日は、看護あきたのなんでもメッセージに心暖まるご意見をいただきありがとうございました。今後も、皆さんのご意見を参考にしながら、看護あきたをよりよいものにしていきたいと思っております。

(記・西村 真智子)

看護あきた Vol.109

平成24年度 2号

Nursing Akita



発行日/平成24年9月27日

発行責任者/公益社団法人 秋田県看護協会 会長

発行所/公益社団法人 秋田県看護協会 秋田市千秋久保田町6-6 Tel 018-834-0172

印刷所/秋田中央印刷(株) 秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577